

対象規格	JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
------	---------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	14.2		ed	“方法” を削除？	試験方法は、製造業者による。 → 試験は、製造業者による。	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4002	日本製鉄	松本	附属書 JC.5.2		te	G3313（電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）の附属書JD（蛍光X線分析法によるオフラインめっき付着量試験方法）では、JD.5.2 試験片の採取位置及び数に以下「」部の記載があるが、今回のドラフトでは赤字部の記載がない。このため、同様の表記とし、表裏面で別の試験片を使用できることを明確にする。 「試験片は、13.1.1・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片を用いて測定する場合は、試験片は図 JD.1 に示す 3 か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する」	下記赤字を追加する。 JC.5.2 試験片の採取位置及び数 試験片は、・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片を用いて測定する場合は、試験片は図 JC.1 に示す 3 か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する。	原案のまま	この規格では、G3313の規定とは異なり、表面、裏面それぞれの付着量を同一の試験片を用いて測定することを規定しているが、現規定で問題ないことをWGの委員に改めて確認しました。よい提案と考えますが、緊急性はないので、次回改正時の検討課題とします。	原案のまま
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	JC.6.2		ed	“8時間ごと又は日ごとなど、” ← 文章を修正する必要がありますませんか。	8時間ごと又は日ごとなど、 → 8時間ごと又は日ごと、 (又は → 8時間ごと、日ごとなど、)	採用	「8時間ごと又は日ごとなど、定期的に蛍光X線の強度…」→「定期的（例えば、8時間ごと、日ごとなど）に蛍光X線の強度…」と修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4004	東理大	田中	JE.4	c)	ge	JIS K 0050（分析）とJIS Z 8703（試験場所）では、常温の定義が異なります。したがって、“常温（〇℃～〇℃）”のように温度を明示したほうがよい。		採用	“常温（5℃～35℃）”と修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4005	東理大	田中	JE.4	c)	ed	字句の修正	アルコール → エタノール	採用		採用

対象規格	JIS G 3317（溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）
------	--------------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	14.2		ed	“方法” を削除？	試験方法は、製造業者による。 → 試験は、製造業者による。	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4002	日本製鋼	松本	附属書 JC.5.2		te	G3313（電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）の附属書JD（蛍光X線分析法によるオフラインめっき付着量試験方法）では、JD.5.2 試験片の採取位置及び数に以下「」部の記載があるが、今回のドラフトでは赤字部の記載がない。このため、同様の表記とし、表裏面で別の試験片を使用できることを明確にする。 「試験片は、13.1.1・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片を用いて測定する場合は、試験片は図 JD.1 に示す 3 か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する」	下記赤字を追加する。 JC.5.2 試験片の採取位置及び数 試験片は、・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片を用いて測定する場合は、試験片は図 JC.1 に示す 3 か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する。	原案のまま	この規格では、G3313の規定とは異なり、表面、裏面それぞれの付着量を同一の試験片を用いて測定することを規定しているが、現規定で問題ないことをWGの委員に改めて確認しました。よい提案と考えますが、緊急性はないので、次回改正時の検討課題とします。	原案のまま
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	JC.6.2		ed	“8時間ごと又は日ごとなど、” ← 文章を修正する必要がありますませんか。	8時間ごと又は日ごとなど、 → 8時間ごと又は日ごと、 (又は → 8時間ごと、日ごとなど、)	採用	「8時間ごと又は日ごとなど、定期的に蛍光X線の強度…」→「定期的（例えば、8時間ごと、日ごとなど）に蛍光X線の強度…」と修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4004	東理大	田中	JE.4	c)	ge	JIS K 0050（分析）とJIS Z 8703（試験場所）では、常温の定義が異なります。したがって、“常温（〇℃～〇℃）”のように温度を明示したほうがよい。		採用	“常温（5℃～35℃）”と修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4005	東理大	田中	JE.4	c)	ed	字句の修正	アルコール → エタノール	採用		採用

対象規格	JIS G 3321（溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
------	---------------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	14.2		ed	“試験方法は、製造業者による。” ← 文章を修正する必要があります。	試験方法は、製造業者による。 → 試験は、製造業者による。	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4002	日本製鋼	松本	附属書 JC.5.2		te	G3313（電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）の附属書JD（蛍光X線分析法によるオフラインめっき付着量試験方法）では、JD.5.2 試験片の採取位置及び数に以下「」部の記載があるが、今回のドラフトでは赤字部の記載がない。このため、同様の表記とし、表裏面で別の試験片を使用できることを明確にする。 「試験片は、13.1.1・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片は図 JC.1 に示す 3 か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する」	下記赤字を追加する。 JC.5.2 試験片の採取位置及び数 試験片は、・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片を用いて測定する場合は、試験片は図 JC.1 に示す 3 か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する。	原案のまま	この規格では、G3313の規定とは異なり、表面、裏面それぞれの付着量を同一の試験片を用いて測定することを規定しているが、現規定で問題ないことをWGの委員に改めて確認しました。よい提案と考えますが、緊急性はないので、次回改正時の検討課題とします。	原案のまま
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	JC.6.2		ed	“8時間ごと又は日ごとなど、” ← 文章を修正する必要があります。	8時間ごと又は日ごとなど、 → 8時間ごと又は日ごと、 (又は → 8時間ごと、日ごとなど、)	採用	「8時間ごと又は日ごとなど、定期的に蛍光X線の強度…」 → 「定期的（例えば、8時間ごと、日ごとなど）に蛍光X線の強度…」と修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4004	東理大	田中	JE.4	c)	ge	JIS K 0050（分析）とJIS Z 8703（試験場所）では、常温の定義が異なります。したがって、“常温（〇℃～〇℃）”のように温度を明示したほうがよい。		採用	“常温（5℃～35℃）”と修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4005	東理大	田中	JE.4	c)	ed	字句の修正	アルコール → エタノール	採用		採用

対象規格	JIS G 3323（溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板及び鋼帯）
------	---

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	14.2		ed	“試験方法は、製造業者による。” ← 文章を修正する必要があります。	試験方法は、製造業者による。 → 試験は、製造業者による。	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4002	日本製鋼	松本	附属書 C.5.2		te	G3313（電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）の附属書JD(蛍光X線分析法によるオフラインめっき付着量試験方法)では、JD.5.2 試験片の採取位置及び数に以下「」部の記載があるが、今回のドラフトでは赤字部の記載がない。このため、同様の表記とし、表裏面で別の試験片を使用できることを明確にする。 「試験片は、13.1.1・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片を用いて測定する場合は、試験片は図 JD.1 に示す 3 か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する。」	下記赤字を追加する。 JC.5.2 試験片の採取位置及び数 試験片は、・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片を用いて測定する場合は、試験片は図 JC.1 に示す 3 か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する。	原案のまま	この規格では、G3313の規定とは異なり、表面、裏面それぞれの付着量を同一の試験片を用いて測定することを規定しているが、現規定で問題ないことをWGの委員に改めて確認しました。よい提案と考えますが、緊急性はないので、次回改正時の検討課題とします。	原案のまま
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	C.6.2		ed	“8時間ごと又は日ごとなど、” ← 文章を修正する必要がありますませんか。	8時間ごと又は日ごとなど、 → 8時間ごと又は日ごと、 (又は → 8時間ごと、日ごとなど、)	採用	「8時間ごと又は日ごとなど、定期的に蛍光X線の強度…」 → 「定期的（例えば、8時間ごと、日ごとなど）に蛍光X線の強度…」と修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4004	東理大	田中	E.4	c)	ge	JIS K 0050（分析）とJIS Z 8703（試験場所）では、常温の定義が異なります。したがって、“常温（〇℃～〇℃）”のように温度を明示したほうがよい。		採用	“常温（5℃～35℃）”と修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4005	鉄連	楠野	E.4	c)	ed	字句の修正	アルコール → エタノール	採用		採用

対象規格	JIS G 3314（溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯）
------	-------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	12.3	表20	ge	“めっきの付着量表示記号”が数字のために、単位があるように受け取られませんか？	表の枠外の右方の“単位 g/m <sup>2</sup> ”を削除し、付着量 → 付着量 g/m <sup>2</sup>	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	14.2		ed	“試験方法は、製造業者による。” ← 文章を修正する必要があります。	試験方法は、製造業者による。 → 試験は、製造業者による。	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4002	日本製鋼	松本	附属書 JB.3.5.2		te	G3313（電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）の附属書JD（蛍光X線分析法によるオフラインめっき付着量試験方法）では、JD.5.2 試験片の採取位置及び数に以下「」部の記載があるが、今回のドラフトでは赤字部の記載がない。このため、同様の表記とし、表裏面で別の試験片を使用できることを明確にする。 「試験片は、13.1.1・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片を用いて測定する場合は、試験片は図JD.1に示す3か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する」	下記赤字を追加する。 JC.5.2 試験片の採取位置及び数 試験片は、・・・・・・・・・・。ただし、表面、裏面それぞれの付着量を、同一の試験片を用いず、異なる試験片を用いて測定する場合は、試験片は図JC.1に示す3か所の位置又はその近傍から、それぞれ採取する。	原案のまま	この規格では、G3313の規定とは異なり、表面、裏面それぞれの付着量を同一の試験片を用いて測定することを規定しているが、現規定で問題ないことをWGの委員に改めて確認しました。よい提案と考えますが、緊急性はないので、次回改正時の検討課題とします。	原案のまま
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	JB.3.6.2		ed	“8時間ごと又は日ごとなど、” ← 文章を修正する必要がありますか。	8時間ごと又は日ごとなど、 → 8時間ごと又は日ごと、 (又は → 8時間ごと、日ごとなど、)	採用	「8時間ごと又は日ごとなど、定期的に蛍光X線の強度…」 → 「定期的（例えば、8時間ごと、日ごとなど）に蛍光X線の強度…」と修正します。	採用

対象規格	JIS G 3117（鉄筋コンクリート用再生棒鋼）
------	---------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	6	表2	ge	Al：上限値は要りませんか。		原案まま	この規格で、材料として規定している鋼板、形鋼及び平鋼については、該当する製品JISで、いずれもAlの上限値は規定していないため、原案ままとさせていただきます。なお、下限値 0.01 % は、リムド鋼を材料としないために規定しています。	原案まま

対象規格	JIS G 3467 (加熱炉用鋼管)
------	---------------------

コメントタイプ : ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果 : 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	10	表8	ed	他所の表の表記に合わせ、見出し欄中の単位記号の括弧を削除	外径 (mm) → 外径 mm 厚さ (mm) → 厚さ mm	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4002	日本製鉄	松本	13.2.4	図-1	ed	へん平試験片の図が、改定前は管状試験片とC形試験片の2種類あったが、改定案はC形のみとなっています。改定案でも、仕様上管状とC形の2種類があります。(参考：先日改正されたJIS G 3460 '22年版でも管状とC形の2種類の図が記載されていました)	へん平試験の管状試験片の図も、改定前同様に記載する。	原案のまま	図がなくても理解可能なものはできるだけ省略したいと考えております。継目無管のみの規格 (JIS G 3467など) は、溶接部の位置を明確化する必要がないので、C形試験片のみを記載しております。溶接管も対象の規格 (JIS G 3460など) については、溶接部の位置を明確化するために管状試験片とC形試験片の両方の図を記載することに統一したいと考えております。	原案のまま
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	13.5		ed	細別には、“次による。”のような文を前置させる。たとえば、右欄の文章を挿入する。	非破壊試験の試験頻度及び試験方法は、次による。	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4004	JFE	中澤	表A.1	表A.1	ed	表にて、「適用 (鋭敏化熱処理)」に今回、変更されていますが、少し不自然と思われます。「熱処理の適用」と記載すると、「固溶化熱処理」と区別がつかないので、単に、「鋭敏化熱処理の適用」と記載しては、と思います。		採用		採用

対象規格	JIS G 3477-1 (ポリエチレン被覆鋼管-第1部: 外面3層ポリエチレン押出被覆鋼管)
------	--

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	7.1	表3	ed	"x"ではなく、", "にする？ また、"間"は要りませんか？	23℃±3℃×28日 → 23℃±3℃, 28日間 60℃±3℃×28日 → 60℃±3℃, 28日間 80℃±3℃×48時間 → 80℃±3℃, 48時間	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4002	東理大	田中	A.2.3		ed	"-"の削除	50-mm/min → 50 mm/min	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	A.2.6		te	字句の修正	(体積分率10%) → (質量分率10%)	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4004	東理大	田中	D.1		ed	漢字を入れたほうが分かりやすいのでは？	除せいする → 除せい(錆)する	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4005	東理大	田中	D.1	表D.1	ed	"簡条"は不要と思われますが・・・。	簡条7. → 7. 簡条4. のb) → 4. の	採用		採用



対象規格	JIS G 3477-2 (ポリエチレン被覆鋼管—第2部： 外面ポリエチレン押出被覆鋼管)
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
								(コメントなし)				

対象規格	JIS G 3477-3 (ポリエチレン被覆鋼管—第3部： 外面ポリエチレン粉体被覆鋼管)
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	東理大	田中	1	注記2	ed	第1部及び第2部の表記に合わせて修正しますか？	使用される。 → 使用されている。	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4002	JFE	中澤	表2	表2	ed	JIS G3444、JIS G3445は、外径21.7mm～1625.6mmの欄に移しては、と考えます。		採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	7.1	表5	ed	"x"ではなく、", "にする？ また、"間"は要りませんか？	23℃±3℃×28日 → 23℃±3℃, 28日間 60℃±3℃×28日 → 60℃±3℃, 28日間 80℃±3℃×48時間 → 80℃±3℃, 48時間	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4004	東理大	田中	8.1		ed	重複する読点を削除	にある場合は、, → にある場合は、	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4005			8.1		ed	重複する読点を削除	にある場合は、, → にある場合は、	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4006	東理大	田中	8.4		ed	数値と単位との間に空白を挿入	23℃以上での → 23℃以上での	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4007	東理大	田中	10.1		ed	句点を挿入	場合を除く) に対し、 → 場合を除く。) に対し、	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4008	東理大	田中	B.1		ed	漢字を入れたほうが分かりやすいのでは？	除せいする → 除せい(錆)する	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4009	東理大	田中	B.1	表B.1	ed	"箇条"は不要と思われますが・・・。	箇条7. → 7. 箇条4. のb) → 4. のb)	採用		採用

会議	年月日	No	委員		図案 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. 図1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	JSA	堤	目次		ed	附属書JA及び附属書JBに題名を追加してください。		採用	それぞれ、次のように題名を追加します。 附属書JA(規定) 青熱破壊試験方法 附属書JB(規定) 磁粉探傷試験方法	採用
三者委員会	2022/7/28	4002	東理大	田中	目次	附属書JA	ed	題名が欠落しています。	附属書JA(規定) 青熱破壊試験方法	採用	No.4001参照	採用
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	目次	附属書JB	ed	題名が欠落しています。	附属書JB(規定) 磁粉探傷試験方法	採用	No.4001参照	採用
三者委員会	2022/7/28	4004	JSA	堤	1		ed	「適切な倍率」は、技術的な変更になると思いますので、対比表に追加してはどうでしょうか？		採用	対比表に箇条1を次のように追加します。 c)修正 d)JISでは、モニタによる観察などの実態を反映して、倍率を「適切な倍率」に修正した。 EISO規格改訂時に提案を検討する。	採用
三者委員会	2022/7/28	4005	JSA	堤	1		te	「鋼の非金属介在物を評価」で、「地きず」の有無の評価が含まれているのでしょうか？規格名称と適用範囲との関係が一致していませんが、大丈夫でしょうか？		修正採用	3.1に整合するように次のように修正します。 「…された鋼の地きず（ピンホール、ブローホール、非金属介在物、異物の介在など）を評価する…」	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4006	JSA	堤	1	注記1	ed	字句修正	「ISO 3763では」→ 「対応国際規格では」？	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4007	JSA	堤	2		ed	JIS B 0601の注記として、ISO 4287が記載されていますが、基礎とした国際規格でISO 4287は引用しておらず、このJISが独自にJIS B 0601を引用しているため、JISの番号及び名称だけを記載し、側線を施してはどうでしょうか。（JIS原案作成のための手引【第20版 P17例5参照】 （72320.1の注記も同様）		採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4008	JSA	堤	3.1		te	「鋼の仕上面において、肉眼又は適切な倍率で拡大して認められるピンホール及びびきず」と定義し、この他の内容は、注釈として記載してはどうでしょうか？		原案のまま	旧版から、技術的には修正していない(観察倍率を修正しただけ)ので、原案のまましたいと思います。	原案のまま
三者委員会	2022/7/28	4009	東理大	田中	5.1		ed	字句の修正	分布を測定による。 → 分布を測定する。 (または → 分布の測定による。)	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4010	JSA	堤	5.1		ed	原理において、「-----分布を測定による。」は、適切ではないと思います。 現行規格の「測定する。」に戻してはどうでしょうか？	「段削り試験方法は、----分布を測定による。」→ 「段削り試験方法は、----分布を測定する。」	採用	No.4009参照	採用
三者委員会	2022/7/28	4011	JFE	中澤	5.1		ed	「・・・分布を測定による。」	「・・・分布を測定する試験方法である。」	修正採用	No.4009参照	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4012	大同	後藤	5.1		ed	「・・・地きずの数及び分布を測定による。」 →「・・・地きずの数及び分布の測定による。」 に修正する。	同左	修正採用	No.4009参照	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4013	JSA	堤	5.3	a)	ed	字句追加	「長さ0.5 mm以下の地きずは、測定対象としない。」→ 「ただし、長さ0.5 mm以下の地きずは、測定対象としない。」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4014	JSA	堤	5.3	b) 注記	ed	字句修正	「ISO 3763では」→ 「対応国際規格では」？	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4015	JSA	堤	5.3	c)		質問：自動画像解析の他に、どのような方法があるのでしょうか？		回答	今後の技術革新を考慮して、“など”を入れた表現としています。	回答
三者委員会	2022/7/28	4016	JSA	堤	5.4	c)	ed	「地きずの数は、試験片の各段ごとに同一地きず番号に属する地きず数を100 mm×100 mmの面積当たりの数に換算して求める」ですが、次ページの「n=---」に式の番号を付けて記載してはどうでしょうか？	「---数に換算して求める。」→ 「---数に換算して、式(1)によって求める」？	修正採用	式に番号“(1)”を付けます。  規定は、次のようにします。 地きずの数は、試験片の各段ごとに同一地きず番号に属する地きず数を、式(1)によって100 mm×100 mmの面積当たりの数に換算して求める。	修正採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a) 表	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4017	JSA	堤	5.5	b) 1)	ed	本文と同じ表記にはどうでしょうか？	「地きずの長さとその数を表示する場合」→ 「地きずの長さとその数とを表示する場合」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4018	JSA	堤	5.5	b) 2)	ed	本文と同じ表記にはどうでしょうか？	「地きずの総長と総数を表示する場合」→ 「地きずの総長と総数とを表示する場合」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4019	JSA	堤	5.5	b) 例1	ed	式(1)を引用して記載してみました。いかがでしょうか？	「計算結果は、次のようになる。」→ 「計算結果は、式(1)によって次のようになる。」？	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4020	JSA	堤	8		ed	対比表によると、対応国際規格には「試験報告書」の箇条がないので、箇条8全てに側線又は点線の下線が必要では。		採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4021	JSA	堤	附属書JA		ed	「この附属書は、ISO 3763:1976, Wrought steels—Macroscopic methods for assessing the content of non-metallic inclusionsに規定されている青熱破壊試験方法を翻訳し、技術的内容を変更することなく作成したものである。」と記載されていますが、この規格は、ISO 3763:1976を基に作成している規格であるため、附属書でこのような記載をする必要はなく、対比表に記載すればよい内容と考えます。  なぜ、附属書JBも含めて規格本体に記載せずに附属書とするのでしょうか？	「この附属書は、ISO 3763:1976, Wrought steels—Macroscopic methods for assessing the content of non-metallic inclusionsに規定されている青熱破壊試験方法を翻訳し、技術的内容を変更することなく作成したものである。」を削除する。  対比表の附属書JAのd)の修正案参照してください。	採用	冒頭の「この附属書は、…作成したものである。」を削除し、対比表をご提案の内容に修正します。  地きずは、国内では、通常、段削り試験方法で評価されるため、この方法を本体規定とし、青熱破壊試験方法及び磁粉探傷試験方法は、附属書としました。	採用
三者委員会	2022/7/28	4022	東理大	田中	JA.3.1		ed	読点をコンマに変更	生じるように、十分に → 生じるように、十分に	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4023	JSA	堤	JA.5.2	図JA.1	ed	図中の注符号をアルファベットに変更する。	「注 <sup>1)</sup> 、注 <sup>2)</sup> 、----」→ 「注 <sup>a)</sup> 、注 <sup>b)</sup> 、----」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4024	JSA	堤	JA.6		ed	字句修正	「それらが糸状の介在物と混同するかもしれないので、」→ 「それらを糸状の介在物と混同するかもしれないので、」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4025	JSA	堤	附属書JB		ed	「この附属書は、ISO 3763:1976, Wrought steels—Macroscopic methods for assessing the content of non-metallic inclusionsに規定されている磁粉探傷試験方法を翻訳し、技術的内容を変更して作成したものである。」と記載されていますが、この規格は、ISO 3763:1976を基に作成している規格であるため、附属書でこのような記載をする必要はなく、対比表に記載すればよい内容と考えます。	「この附属書は、ISO 3763:1976, Wrought steels—Macroscopic methods for assessing the content of non-metallic inclusionsに規定されている磁粉探傷試験方法を翻訳し、技術的内容を変更して作成したものである。」を削除する。  対比表の附属書JBのd)の修正案参照してください。	採用	冒頭の「この附属書は、…作成したものである。」を削除し、対比表をご提案の内容に修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4026	JSA	堤	JB.1		te	「磁粉探傷試験は、受渡当事者間の協定によって乾式法で行ってもよい。」は、原理ではないので、箇条7（磁粉探傷試験方法手順）に記載してはどうでしょうか？		修正採用	箇条7に移動した場合、「乾式法」の唐突感があると思います。そこで、JB.3.2を次のようにし、JB.1の第2段落、第3文(磁粉探傷試験は、…乾式法で行ってもよい。)を削除します。 <JB.3.2の修正内容> 磁粉探傷試験の手順は、JIS Z 2320-1による。磁粉は、通常、分散媒に懸濁させて用いる湿式法による。ただし、受渡当事者間の協定によって、各種の乾式磁粉を用いる乾式法によってもよい。	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4027	JSA	堤	JB.1		te	「磁粉探傷試験では、き裂、ブローホール、収縮き裂などのような金属中の他の不規則なものも指示されてしまうことに注意する。得られた観察結果が非金属介在物と正しく対応することを確かめるため、浸透探傷試験などによってあらかじめ確認しておくことが望ましい。」は、原理に記載するのはなく、JB.3.2（手順）に記載してはどうでしょうか？		採用		採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a) 表	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4028	JSA	堤	JB.3.1		ed	字句追加	「次の試験表面から選んでもよい。」→ 「次いずれかの試験表面から選んでもよい。」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4029	JSA	堤	JB.3.1		ed	字句削除	「試験されるべき表面」→ 「試験片の表面」?	採用	JB.3.1冒頭の「試験される表面」は、「試験面」に 修正します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4030	JSA	堤	JB.4		ed	「蛍光白色光は、大多数の場合に有効である。」は、 対応国際規格の直訳のようですので、「蛍光白色光を 用いることが、望ましい。」ではどうでしょうか?		修正採用	次とします。 通常、蛍光白色光を用いることが、望ましいが 適用される。	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4031	JSA	堤	JB.4		te	「観察しようとする表面を直接に測定する代わりに、 -----薄板のいずれかに貼り付ける。」は、結果ではな く、レプリカを用いる方法について規定しているの で、JB.3.2（手順）に移動してはどうでしょうか?		採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4032	JSA	堤	附属書JC 3	d)	ed	記載内容修正	「ISO規格には、用語及び定義の箇条がないため、追 加した。」→ 「JISでは、地きずを定義するとともに、JIS G 0202を 引用した。」?	修正採用	次とします。 JISでは、用語及び定義の箇条を追加し、地きず を定義するとともに、JIS G 0202を引用した。	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4033	JSA	堤	附属書JC の附属書 JA	d)	ed	記載内容修正	「ISO規格では、本文（箇条3）及びANNEX Aに規定 している内容を、JISは、附属書JAに統合して規定し ている。」→ 「JISは、ISO規格の本文（箇条3）及びANNEX Aに規 定している内容を翻訳し、技術的内容を変更すること なく結合して附属書JAとして規定している。」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4034	東理大	田中	附属書JC	附属書JB d)	ed	読点をコンマに変更（3か所）	ISO規格では、本文（箇条3）及びANNEX Aに規定 している内容を、JISは、 → ISO規格では、本文（箇条3）及びANNEX A に規定している内容を、JISは、	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4035	JSA	堤	附属書JC の附属書 JB	d)	ed	記載内容修正	「JISでは、磁粉探傷試験方法として最新のISO規格に 対応したJISを採用した。」→ 「JISは、ISO規格の本文（箇条5）及びANNEX Bに規 定している内容を翻訳し、技術的内容を変更して結合 して附属書JBとして規定している。」	採用		採用

会議	年月日	No	委員		図案 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	内容	コメント提出	担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名						処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4001	JSA	堤	5	a)	ed	字句修正	「電動形、圧縮空気形のいずれでもよく」→ 「電動形又は圧縮空気形のいずれでもよく」？	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4002	JSA	堤	5	a)	ed	字句修正	「能力を有し」→ 「能力をもち」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4003	東理大	田中	5	b)	ed	括弧内の規格名称は不要では？	JIS R 6210（ビトリファイド研削といし）に規定する → JIS R 6210に規定する	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4004	JSA	堤	5	b)	ed	JIS R 6210（ビトリファイド研削といし）の「（ビトリ ファイド研削といし）」は、不要です。		採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4005	東理大	田中	7.1		ed	細別には、“次による。”のような文を前置きする。 たとえば、右欄の文章を挿入する。	試験方法の一般事項は、次による。	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4006	JSA	堤	7.1		ed	7.1 試験方法一般の次の行に、 「試験方法一般は、次による。」を追加する。		修正採用	No.4005参照	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4007	JSA	堤	7.1	d)	ed	附属書Cは「浸炭層及び窒化層の火花のスケッチ例」 だけをしめしているの、（附属書C参照）も修正し てはどうか？	（附属書C参照）→ （浸炭層及び窒化層の火花のスケッチ例は、附属書C 参照）？ 「-----避けなければならない。図C.1及び図C.2に、 浸炭層及び窒化層の火花のスケッチ例を示す。」 と記載してはどうか？	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4008	JSA	堤	7.1	f)	ed	字句追加	「観察（見送り式）する又は」→ 「観察（見送り式）するか又は」？	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4009	JSA	堤	7.2		ed	字句修正	「鋼種推定試験は、以下による。」→ 「鋼種推定試験は、次による。」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4010	JSA	堤	7.2	a)	ed	字句修正	「炭素量及び合金元素の種類及び量を推測して」→ 「炭素量並びに合金元素の種類及び量を推測して」で は？	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4011	JSA	堤	7.2	b)	ed	「鋼種の推定は、8.2に示す手順によるのがよい。」と 記載されていますが、推奨規定でよいのですか？		回答	適用範囲のとおり、「鋼種推定試験」ですので、 推定でよいと思います。	回答
三者委員会	2022/7/28	4012	JSA	堤	7.3		ed	字句修正	「異材鑑別試験は、以下による。」→ 「異材鑑別試験は、次による。」	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4013	JSA	堤	8.1	図4	te	表2に記載のない特徴（分裂剣花、白ひげつきやり、裂 花など）の記載があってもよろしいですか？		原案のまま	火花特性は、表2及び図4に示しています[(8.1 b) 1)]ので、問題ないと思います。	原案のまま
三者委員会	2022/7/28	4014	東理大	田中	8.1	a) 1) 注	ed	注番号を修正	注3) → 注1)	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4015	東理大	田中	8.1	a) 2)	ed	字句の修正	図A.9～図A.10に → 図A.9及び図A.10に	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4016	JSA	堤	8.2		te	「火花試験方法によって鋼種を推定する手順を、表3及 び表4に示す。」と記載されていますが、細別について の文（〇〇は、次による。）が必要では？		修正採用	前置き文を次のように修正します。 火花試験方法によって鋼種を推定する手順を は、表3及び表4に示す次による。	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4017	東理大	田中	8.2	表2	ed	漢字に変更	手ごたえ → 手応え	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4018	東理大	田中	8.2	表2	ed	色欄の“色”はなくてもよいのでは？	たとえば、“黄みの白色 → 黄みの白” など	採用	表2の他の“色”も削除します。	採用
三者委員会	2022/7/28	4019	東理大	田中	8.2	表3	ed	数値と%との間に空白を挿入	たとえば、“0.25%以下 → 0.25 %C以下” など	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4020	JSA	堤	8.2	c) 表4	te	SKH9は、G 4403（高速度工具鋼鋼材）に規定されて いませんが、必要ですか？		修正採用	G4403:1983で、SKH9は、SKH51に変更になり ましたので、SKH9をSKH51に修正します。図 B.22もあわせて修正します。	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4021	JSA	堤	附属書A	図A.2	te	化学成分の数値が、現行規格と異なっていますが、よ ろしいのですか？	「0.05, 0.14, 0.28」→ 「0.09, 0.25, 0.45」では？	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4022	JSA	堤	附属書B	図B.1 b)	ed	修正案を作成してみました。ご検討ください。 （図B.7も同様）	「約0.2 %C鋼との根本付近の破裂の特徴比較」→ ①「SCr420と約0.2 %C鋼との根本付近の破裂の特徴 を比較すると、次のとおりである。」又は ②「SCr420と約0.2 %C鋼との根本付近の破裂の特徴 を比較した図を、次に示す。」	②を採用		②を採用
三者委員会	2022/7/28	4023	JSA	堤	附属書B	図B.1 b)	ed	図の部分の記載様式として、「約0.2 %C鋼」及び 「SCr420」が図の上に記載されているのは適切ではな いと思います。 （図B.7も同様）	①SCr420の図を左側に記載し、約0.2 %C鋼の図を右 側に記載する。 ②だけを、それぞれ図の下に記載する。又は 細分図と考え、図の題名として1) 2)SCr420、約0.2 %C鋼を図の下に記載する。（Z8301の28.3.2参照）	②を採用	「SCr420」及び「約0.2 %C鋼」の左右位置を 入れ替え、「SCr420」及び「約0.2 %C鋼」だ けを、それぞれ図の下に記載します。	②を採用

会議	年月日	No	委員		箇条 番号 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/7/28	4024	JSA	堤	附属書B	図B.18	te	「SKS2及び、SKS3に比べて、やや裂花が少なく、流線がやや太い。」は現行JISと異なっていますが、よろしいのですか？	「SK3とまちがいがやすいが、より明るい。火花が多く、大きく、花粉を伴った小花がつく。」では？	採用		採用
三者委員会	2022/7/28	4025	JSA	堤	附属書B	図B.22	te	SKH9は、G 4403（高速度工具鋼鋼材）に規定されていませんが、必要ですか？		修正採用	G4403:1983で、SKH9は、SKH51に変更になりましたので、SKH9をSKH51に修正します。図B.22もあわせて修正します。	修正採用
三者委員会	2022/7/28	4026	JSA	堤	附属書C		ed	附属書Cは、浸炭層及び窒化層の火花のスケッチ例だけを記載しているので、附属書A及び附属書Bのように記載してはどうでしょうか？  (C.1を記載した場合、C.2の本文として「浸炭層の火花のスケッチ例（SCM420）を図C.1に示す。」と図番号を参照する文を記載することになると思います。） (C.3も同様です。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C.1を全てを削除する。</li> <li>・「C.2 浸炭層の火花のスケッチ例（SCM420）」及び「C.3 窒化層の火花スケッチの例（SACM645）」（箇条番号及び題名だけ）を削除する。</li> </ul>	採用		採用